



せ い あ

藤枝市中ノ合26-1

医療法人社団 ^{やしま かい}八洲会
誠和藤枝病院

<054>638-3111(代)

診療時間

月～金
午前9:00～午後5:00

土
午前9:00～午前12:00

お年よりのために

誠和藤枝病院院長

浅川 建史

若く元気な頃から、筆や弁の立つ論客としてならし、家族や地域の方々への尊敬を一身に集めてきた齢九十歳間近のある患者様は、脳梗塞を初めとした、様々な疾病を重ね、自宅介護困難となり、現在入院中です。施設でのきめ細かい生活管理にもかかわらず、しばしば、尿路や気道の感染や脱水などの合併症を繰り返しますが、都度、適切な医療的介入により危機的情況を脱してきました。ご家族からは診療への信頼を得ており、感謝されています。しかし回診にあたる医師に彼は、弱々しくもはつきりと、『この私への医療は間違っている。私はこの世にもう未練は無い。もうほっといて欲しいんだ』と言ひ、我々を戸惑わせるのです。

かつて日本が右肩上がりの好景気の時代、我々は猛烈に頑張つて多くの知識を、身につけてきました。学校や社会から教えられる知識をいかに体系付けて多く身につけるかを考えてきました。その知識によって、ほとんど

の事が解決できたからです。しかし今、日本も世界も大きな曲がり角にあります。何かおかしいと気付いても、どうしていいのかわからないのです。医療に関しても同様です。現在進行中の未曾有の高齢化に対する戸惑いはあつても、我々医療従事者は、よりよい医療管理のためにさらに多くの知見を集めていくでしょう。しかし、一方医療報酬は削られており、医師の診療の自由度は制限されています。ある意味で近代医学を発達させる原動力であつた『医師の独り善がり』への厳しい批判があります。その患者様について言うならば、今までの医療介入が、生命維持に適切であつたにもかかわらず、さらに彼の心の安寧のためには、何が必要なのかを提起しているのです。少なくとも私たちは、彼の意味や生き方などに思いを至らせなかつたのです。それはむしろ不遜なことであつて、自分たちの仕事ではないと、避けて通つてきた問題だったかも知れません。しかし、私たちも近い将来間違いなく組み込まれる、高齢者の幸せのために、今私たちができることは何かを改めて問い直す時期にあるような気がします。

誠和藤枝病院では、入院患者一人一人に対応した個別の診療・看護・介護プランを立て、日々ディスプレイを繰り返しています。今後、ますますきめ細かく、柔軟で多様な対応が求められるでしょう。しかし、これからの社会は経済や医療を含めたあらゆるものが、未知への挑戦です。そこには既成の知識の集積だけではなく、さらにユニークな智慧の必要性が予感されるのです。

今年の抱負

婦長 海野 貞子

二十一世紀という太陽も少しずつ昇り始め、今年は二〇〇三年を迎えます。世相、景気とかんばしくなくても、その中に明るい光を見出し、それに向かって進んでゆきたい、またそうしなければと考えます。

療養型医療施設にとっても、医療保険・介護保険等の制度もめまぐるしく変化し、ますます厳しさを増していると感じますが、その中にある患者様に少しでも良い環境、より良い医療・看護・介護をさせていただきたいと考えています。また、患者様、御家族の皆様と共に喜び、悲しみを分かち合いたいと思います。

そのためにはスタッフ全員が智恵を出し、協力し合う、活力のみなざる元気な誠和藤枝病院でありたいと思います。施設整備はもちろん、中身の充実に努めて、安全と元気をモットーにスタートしてゆきたいと思えます。



12/17
葉梨幼稚園の
子供達が
来ました。



通所リハビリテーションより

看護師 半田 桂子

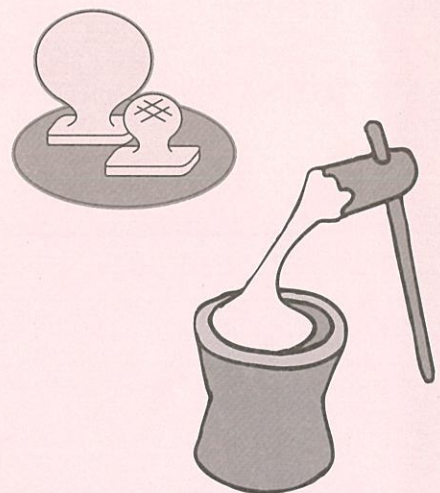
通所リハビリではリハビリテーションの一環としてレクリエーションに力を注いでいます。週替わりでスタッフが内容を決めて、ゲームや作品の製作（作業療法）、歌（音楽療法）など様々なことを楽しみながら出来るよう工夫しています。昨年は園芸にも取り組みました。花や野菜作りに関しては利用者の方々からアドバイスを頂き、種や苗を植えて、野菜（トマト・きゅうり・なす・さつまいも）はたくさん収穫でき、みんなで味わうこともできました。

通所リハビリを利用する目的は、日常生活における身体機能の維持、増進が主となりますが、それ以上に利用者さんたちの交流の場・憩い場となることも大切になっています。人と人との触れ合い、コミュニケーションを大切にし一日を楽しく過ごすことができるよう、医師を中心にスタッフ一同心掛けています。

今年さらには音楽療法の充実を図るとともに屋外活動の一環としてガーデニング等の園芸も引き続き充実させていきたいと思えます。

12/26

お正月の為のおもちをつきました。





職員紹介



看護師 天野 美恵

昨年私は誠和藤枝病院に再就職をしました。

平成十三年の八月に退職し、平成十四年八月にまた働きはじめました。一年前と変わっていたらどうしよう、また皆とうまくやっていたらどうか、と最初は不安でいっぱいでしたが、いざ働きはじめると、あまり変わってなく、私のことも覚えていてくれて一年の空白は、あっという間に不安と一緒に消え、今に至っています。

今年はどんな年になるのでしょうか？できれば平凡な一年であってほしいと思っています。

ヘルパー 赤石 多美子

私の故郷は天竜川の源、北遠の里です。たまに帰りますと会うおじさん、おばさん達が「元気でやっているか？」「この先も体に気をつけてがんばれよ」と先に声を掛けてくれます。

昔は“三世代家族”があたり前でした。介護も自然の営みとして行われていて、さぞかしご苦労も多かったと思います。

病院という場ではありますが、私も介護の仕事に携わるようになり間もなく五年を迎えようとしています。

この先も一生懸命がんばっていこうと思いますので、よろしくをお願いします。

高齢者の食事の工夫

栄養課 坂本 麻理

高齢になると歯が衰え、噛む力も低下してきます。また飲み込みにくくなったり、食事量も減少してしまいます。噛む力が低下すると噛み応えのある肉類、繊維質を多く含む海藻類や果物、生野菜を避けてしまいがちですが、それでは良質なたんぱく質、ビタミン、ミネラル、食物繊維が不足しやすく、様々な病気の誘引となります。その為排除するのではなく、食べやすくする工夫、手間をかけることが大切になります。

そこで当院では以下のことをしています。

- ・噛み砕きやすい様に柔らかく調理する。(柔食)
- ・包丁・フードプロセッサーで細かくきざむ。(きざみ食)
- ・ミキサーを使ってペースト状にする。(ミキサー食)
- ・ミキサーでスープ状にしたものをゼラチンでゼリーにする。(嚥下食)
- ・スープやみそ汁などは、むせない様に片栗粉や凝固剤を使ってとろみをつける。
- ・お茶等をゼラチンで固めてゼリーにし、水分補給として一日4～5回摂取する。

ところが、この様な食事では見栄えが悪くなることが多いので、五感を刺激する工夫も考えます。「肉じゃが」であれば、肉を挽肉にしたり、じゃがいも・にんじん・グリーンピースを別々に調理し、それぞれをミキサー又はフードプロセッサーにかけ三色で盛り合わせ、彩りを良くし、見た目を工夫しています。

高齢者の方も成人同様に、少量でも多品種でバランス良く、規則正しい食生活を送ることが健康維持につながります。

職員募集

医療法人社団 やしまかい 八洲会 誠和藤枝病院

◎正・准看護師

◎介護職員

◎理学療法士 詳しいお問い合わせは
TEL <054>638-3111

◎作業療法士 担当 事務長



編集後記

新しい年の幕開けです。

気持ちを新たにし、それぞれの目標に向かってがんばって行きましょう。